

明石工業高等専門学校		開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	卒業研究
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0099	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 9		
開設学科	都市システム工学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	前期:6 後期:12		
教科書/教材	各研究室で個別に選定される。				
担当教員	C全				
<b>到達目標</b>					
(1)工学の基礎知識を応用・統合して自ら卒業研究課題を設定するとともに、広い視野から体系的・実践的に問題を発見・解決できる。 (2)コンピュータの使い方やプログラミング手法、数値計算法、データ処理技術及び情報伝達の理論・手法を修得し、種々の設計や理論解析に応用できる。 (3)継続的に物事を探求できる。 (4)得られた研究成果を技術論文としてまとめ、それを口頭で他者に伝え討議することができる。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自ら卒業研究課題を設定するとともに、広い視野から体系的・実践的に問題を発見・解決できる。	自ら卒業研究課題を設定することができ、課題に対して解決できる。	自ら卒業研究課題を設定することができず、課題に対して解決できない。		
評価項目2	学習した様々な理論や手法を的確に応用し、課題解決に大いに適用できる。	学習した様々な理論や手法を応用し、課題解決に適用できる。	学習した様々な理論や手法を応用できず、課題解決に適用できない。		
評価項目3	継続的に物事を計画性をもって探求できる。	継続的に物事を探求できる。	継続的に物事を探求できない。		
評価項目4	得られた研究成果を技術論文として詳細にまとめ、それを口頭で他者に的確に伝え、討議することができる。	得られた研究成果を技術論文としてまとめ、それを口頭で他者に伝え討議することができる。	得られた研究成果を技術論文としてまとめることができない。それを口頭で他者に伝え、討議することができない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (G) 学習・教育到達度目標 (H)					
<b>教育方法等</b>					
概要	都市システム工学科の課程で得た学識を総合化させ、指導教員のもとで自主的に選択した卒業研究課題に取り組む。研究テーマは、橋梁工学、環境地盤工学、コンクリート工学、都市地域計画、海岸工学、河川工学、環境工学、構造工学、建設機械工学の各分野から選択する。				
授業の進め方・方法	各研究室に分かれて、指導教員から研究テーマに対して指導を受ける。				
注意点	各研究課題に対して、自ら目標を設定し、資料収集、実験実習及び理論解析を通して研究手法を学び、自主的に問題を解決する姿勢が重要である。 合格の対象としない欠席条件(割合) その他				
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	研究テーマの設定・受講ガイダンス 各指導教員のもとで、個別に説明・指示する。	各指導教員のもとで研究を実施することができる。	
		2週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		3週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		4週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		5週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		6週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		7週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		8週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
後期	2ndQ	9週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		10週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		11週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		12週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		13週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		14週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		15週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	
		16週	期末試験実施せず		
後期	3rdQ	1週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上	

	2週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	3週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	4週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	5週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	6週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	7週	中間発表 個別、グループ別に中間報告を行う。	中間的な研究成果を個別あるいはグループで発表を行うことができる。
	8週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
4thQ	9週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	10週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	11週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	12週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	13週	個別・グループ研究 各指導教員のもとで実施する。	同上
	14週	卒業研究発表会 個別、グループ別に発表会を行う。	研究成果を個別あるいはグループで発表を行うことができる。
	15週	審査会 個別、グループ別に論文審査を行う。	研究成果を個別あるいはグループで審査会において発表し、質問に答えることができる。
	16週	期末試験実施せず	

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会 科学	国語	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3	
			実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3	
			実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3	
			実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3	
			実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3	
	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	3	
			実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3	
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3	
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3	
			共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	3	
			レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3	
			説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
			現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
			技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
			社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	

			<p>全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。</p> <p>技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。</p> <p>科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。</p> <p>科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。</p>	3		
			<p>情報リテラシー</p>	3		
			<p>情報リテラシー</p>	3		
			<p>日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。</p> <p>他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。</p> <p>他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。</p> <p>日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。</p> <p>円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。</p> <p>円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。</p> <p>書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。</p> <p>収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。</p> <p>収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。</p> <p>情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。</p> <p>情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。</p> <p>目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。</p> <p>るべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる</p> <p>複数の情報を整理・構造化できる。</p> <p>特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。</p> <p>課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。</p> <p>グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。</p> <p>どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。</p> <p>適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。</p> <p>事実をもとに論理や考察を展開できる。</p> <p>結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。</p>	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	<p>周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。</p> <p>自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。</p> <p>目標の実現に向けて計画ができる。</p> <p>目標の実現に向けて自らを律して行動できる。</p> <p>日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。</p> <p>社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。</p> <p>法令やルールを遵守した行動をとれる。</p> <p>他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。</p> <p>技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を擧げることができる。</p> <p>自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。</p> <p>その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。</p> <p>キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。</p> <p>これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。</p>	3	
				<p>工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。</p> <p>公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。</p> <p>要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。</p>	3	
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力				

			課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。 提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。 経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	
				3	
				3	

### 評価割合

	研究論文	卒業研究の記録	中間・最終審査	合計
総合評価割合	50	10	40	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	50	10	40	100
分野横断的能力	0	0	0	0